

Title	臨床活動報告 女性のこころとからだの相談室
Author(s)	池添, 冬芽; 我部山, キヨ子
Citation	健康科学 : 京都大学医学部保健学科紀要 (2007), 3: 35-37
Issue Date	2007-03-13
URL	http://dx.doi.org/10.14989/48837
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

女性のこころとからだの相談室

池添 冬芽*, 我部山キヨ子**

1. 「女性のこころとからだの相談室」の概要

女性のこころとからだの相談室は、女性がそのライフサイクルにおいて遭遇する健康問題に対して、こころとからだの両面から総合的に相談に応じることを目的として平成15年4月に開設された。相談室では、京大病院に通院する人産褥婦のみを対象とする「ママ・ベビー相談」と、広く一般女性とその家族を対象とする「女性のこころとからだの相談室」の2本立てで相談を行っている。

後者の「女性のこころとからだの相談室」における対象は女性のライフサイクル各期における健康問題を抱えた女性であり、医師に相談する程でもないが自分では解決できない、あるいは専門家に対してゆっくり時間をかけての相談を希望する女性である。相談業務は保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士の資格を持つ医学部保健学科の教員が担当しており、京大病院の外来棟4階にて実施している。

2. 平成17年度の相談室の実績

1) 相談内容の特徴および領域別相談件数

平成17年度の相談室の内容については下記の通りである。

【月曜日】思春期・青年期の心理的問題についての相談を臨床心理士が受けている。主たる来談者は不登校や引きこもりの子どもを持つ母親、自分の性格や対人関係、親子関係の問題に悩む女性である。相談によって問題を整理し、当面の方針を立てることで安心感が高まり、状態が少しずつ改善していくことが多い。

【火曜日】成人・更年期・老年期の様々な相談を助産師・保健師・看護師・理学療法士が担当している。成人期の身体的問題、更年期障害や生活習慣病による心身の問題、不眠症や高齢者の健康や体力づくりな

ど、1時間に一人とゆっくりと時間をかけて相談に応じており、また、アロマテラピーなど、リラクゼーションに心がけながら、幅広い領域の相談に対応している。

【水曜日】子どもの発達に関する療育相談を理学療法士と作業療法士が担当している。相談内容は運動、言語、知的、社会発達等、多岐におよび、理学療法士は主に未熟児、脳性麻痺等による運動の遅れや重症心身障害児の家庭療育に関する相談を、作業療法士は学習障害、注意欠陥多動性障害、アスペルガー障害等の軽度発達障害児の行動理解、学校支援や自閉症児のコミュニケーション障害に関する相談を中心に行っている。

【木曜日】妊娠・出産に関わる妊婦・不妊・不育等の相談を助産師が担当している。相談内容は妊娠・分娩に関する思いや生活指導、不育症、不妊症、性に関する相談、女性の健康に関する相談であり、治療や検査について理解と納得ができる説明を受けたいというもののや、医療の場面では話にくい相談者の不安や生活に関する相談である。

【金曜日】母乳・育児相談を助産師が受けている。相談内容は母乳育児中の母親による母乳分泌促進または乳房トラブル、断乳に関する相談が中心である。乳房マッサージによる分泌促進や断乳、乳房トラブルの解決を図るが、同時に育児や産褥期の褥婦の身体に関する相談も多い。週1回の相談のため、必要に応じて他施設への紹介も行っている。

平成17年4月から平成18年3月末までの相談内容と相談延べ人数は図1のとおりである。

2) 相談後の経過

相談後の経過について、終了、継続、紹介のいずれの経過であったかの割合を図2に示す。思春期・青年期の心理的相談、療育相談、および母乳・育児相談は継続の割合が多いのに対して、成人（更年期・老年期）、妊婦・不妊相談は1回の相談で終了している割合が多い。

3. 平成18年度の相談室の体制

1) 相談料金の有料化

相談室の料金については、かねてから私費料金を徴収することを交渉してきた。ようやく平成18年度に京都大学医学部附属病院の諸料金規定が表1のように改

* 京都大学医学部保健学科理学療法専攻
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
Department of Physical Therapy, School of Health Sciences,
Faculty of Medicine, Kyoto University

** 京都大学医学部保健学科看護学専攻
Department of Nursing, School of Health Sciences, Faculty
of Medicine, Kyoto University
受稿日 2006年9月15日

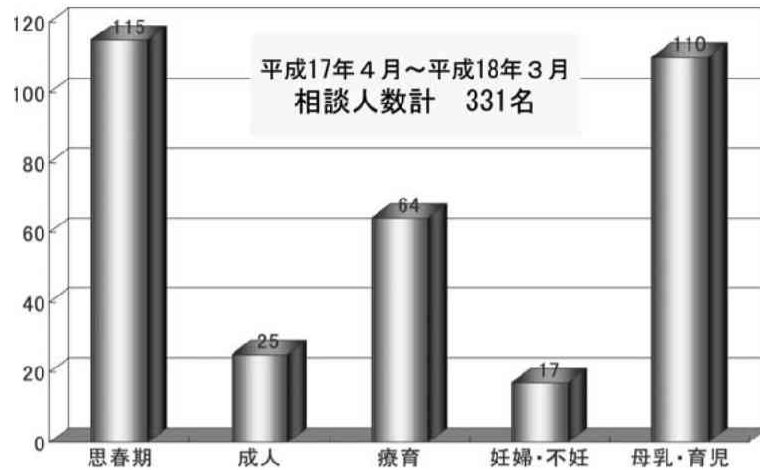


図1 平成17年度女性のこころとからだの相談室における相談人数

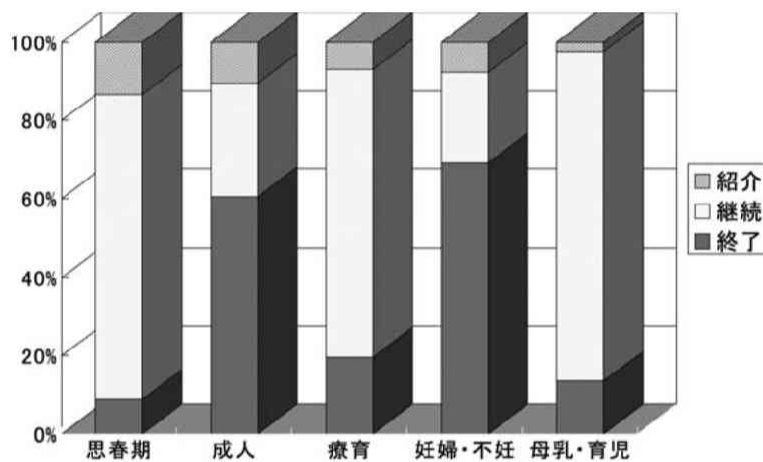


図2 相談後の経過

表1 相談室の料金

女性のこころとからだの相談室における相談料

「思春期・青年期相談」、「生活習慣改善・介護予防」、「中高年期更年期」、「リンパ浮腫改善」、「移植医療に関する相談」、「体力づくり」、「療育相談」、「妊婦・不妊相談」、「睡眠・住まい相談」、「母乳・育児相談」に係る相談料

1回（1時間）につき 3,000円×1.05=3,150円

1時間を超え90分まで 4,500円×1.05=4,725円

90分を越え2時間まで 6,000円×1.05=6,300円

訂され、平成18年6月より有料を原則として相談業務を開始した。現在、相談室においては、1件につき約1時間を基本として月曜から金曜日の13時から16時の時間帯で相談業務を実施している。また、これに伴い、従来の記録用紙が全て電子カルテ上の記入に移行した。

2) 予約受付担当者の雇用

当相談は電話受付による完全予約制であり、週2回の予約受付業務はこれまで医学部保健学科の教員が行っていた。しかし、保健学科の講義や実習等との兼務は困難となってきたため、予約受付担当者の雇用に関する京大病院の運営改善要望書を提出し、平成18年

5月より予約受付担当者の雇用が決定された。なお、当相談室での相談科目が専門的かつ多岐にわたるため、相談内容を把握し、かつ適切な相談科目に割り振れるよう、医学的知識を有する者の雇用を要望し、保健・医療・看護に精通した看護師を非常勤として採用した。

3) 相談室担当者および相談内容の変更

平成18年度より保健学科教員の異動に伴い、相談室の体制が大幅に変更された。相談室の副室長は岡島文恵講師から我部山キヨ子教授に変更となり、月曜日から金曜日の相談室の内容についても、表2のように再編された。

4. お わ り に

開設からまる3年が経過し、相談件数は平成16年度では326件、平成17年度では331件で横ばい状態であるので、院内・院外に対する普及活動を継続して推進する必要がある。また、平成18年度6月からは相談料の有料化が導入された。今後この有料化によって、相談件数や相談内容がどのように推移するかを注意深く見守っていくことが重要である。

表2 相談室の内容

曜 日	時 間	相談科目	担当者	職 種	相談内容
月曜日	13:00～16:00	心 理 相 談	菅 佐和子	臨床心理士	思春期・青年期の心理的な諸問題について、じっくり時間をかけてお話を伺い、問題点を整理し、当面の方針を見出すお手伝いをいたします。ご本人、ご家族および関係者の来談を歓迎いたします。但し、当室では、原則として継続的なカウンセリングは行っておりませんのでご了承ください。
火曜日	13:00～16:00	体力づくり・リハビリ相談	池 添 冬 芽	理学療法士	中高年者の健康増進。特に体力づくりを中心とした相談を担当します。「最近歩きづらくなった」「転びやすい」「手足を動かすににくい」「腰や膝が痛む」など、主として身体機能に関して不安がある方は気軽にご相談ください。その方のからだの状態にあわせた運動・リハビリをご指導いたします。
		妊娠・不妊相談、更年期相談、母乳・育児相談	我部山 キヨ子	助 産 師	思春期・青年期女性の身体的諸問題（月経異常、性に関する諸問題など）、成人期および更年期女性の女性ホルモンが崩れることによる精神・身体的症状、および不妊に関するあらゆるご相談に応じています。
			柳 吉 桂 子	助 産 師	妊娠中に快適な生活を送るためのヒント・自分のスタイルに合った出産場所の選択、育児で気になっていることのご相談に応じています。また、不妊治療に関すること、不妊治療を受けている方やパートナー、ご家族の問題についてもご相談に応じています。病院に行くまでもないかなと思われる身体や性の悩み、女性の健診に関する説明などもお気軽にご相談ください。
		睡眠相談・住宅改修相談	宮 島 朝 子	保 健 師	不眠で悩んでいる方、ご自身の睡眠を客観的に確認しより健康な睡眠をとりたいと思っている方のご相談に応じています。障害など身体機能の変化に伴い必要となる改修やご家族が生活しやすい間取りの工夫など、安全で快適な生活を送るための住環境について、ご相談に応じています。
水曜日 金曜日	13:00～16:00	療 育 相 談	小 西 紀 一	作業療法士	広汎性発達障害、学習障害等、集団適応に問題を持つ子どもさんなど、主に知的発達やコトバの発達、社会性の発達に遅れをもつお子さまに対し、感覚統合理論にのっとってご相談に応じています。
			加 藤 寿 宏	作業療法士	学習障害、注意欠陥多動性障害、アスペルガー障害（症候群）などの軽度発達障害児の行動理解、家族支援、学校支援に関する相談に応じています。また、発達に遅れ（運動・知的）があるお子さまに対する生活支援（日常生活動作・遊びなど）のご相談にも応じています。
			大 畑 光 司	理学療法士	脳性麻痺、発達遅れ、重度複合障害など運動発達の障害をもつお子さまが、座る・立つ・歩くなどの能力を身につけることは、骨や筋肉の萎縮を防ぎ、体力を維持するだけでなく、日常生活を豊かにするためにも不可欠です。相談室では乳児から成人の運動発達障害の方を対象に、座る・立つ・歩くなどの練習を、できるだけ長期間、家庭で続けられるような練習方法を一緒に考えていきたいと思っています。
木曜日	13:00～16:00	リンパドレナージ	赤 澤 千 春 奥 津 文 子 星 野 明	看護 師 看護 師 保 健 師	フェルディ式医療マニュアルリンパドレナージ複合的理学療法に基づいて、手術後・慢性静脈不全症などによるリンパ性浮腫の苦痛を緩和するための、セルフケア（皮膚のケア、セルフマッサージの基本）についてご相談に応じています。
		移植医療に関する相談	林 優 子	保 健 師	臓器移植は末期臓器不全で苦しんでいる人々の命を救い、生活の質を高める福音ともいえる治療法であり、「からだ」「生活」「気持ち」その人の「価値観」をも変える大きな変化をもたらします。しかし、移植後順調に生活を送っていても問題が生じたり、心配ごとや不安に一人で悩んでいらっしゃる方もあると思います。どうぞお気軽にご相談ください。

一方、有料化に見合うように、①パンフレットの作成や視聴覚資料の活用を図るなどして相談内容の充実や相談方法の工夫を行い、対象のニーズに答える努力を一層行うこと、②母乳相談やリンパ浮腫相談に対するケアの実践のように、専門的技術的確な提供と提

供技術の拡大ができるように被相談者の専門的技術力の修練を行うこと、③対象者の相談に十分に答えられたか否かの客観的・主観的評価を行うこと、などを積極的に行っていく必要がある。